

2016年6月4日(土)Fruitラジオ

「恐れ」

今日は、「恐れ」についてお話をしていきます。  
聖書の中で「恐れるな」と書かれている箇所が多くあります。  
なぜ聖書では「恐れるな」と言うのでしょうか。

この「恐れ」は、目に見えないものです。  
私も時々実体のないような目に見えない「恐れ」に支配されていることに  
気づくことがあります。  
例えば、周りにいる人々が常に恐れを抱いている場合、この空気、雰囲気は  
その場所に流れていきます。  
私は、これを見えないコミュニケーションと表現したりしますが、  
時々、私が経験するのが、いつも不安ばかりを口にする人々と接していると  
自分自身も何故か「不安」に襲われていることがあります。  
そして人のおどしのような脅迫のような言葉を投げられた場合、いつのまにか  
私の心に「恐れ」が存在していることに気づくことがあります。  
ほんの少し前まですごく心には平安があり、なにひとつ問題がなかったはず  
なのに、何か外側からのきっかけによって突然平安がなくなることがある  
ことは事実です。

このような心の不安や恐れについては、何か実体のない心の状態というふうに  
受け取ってしまいがちですが、実はその「恐れ」には実体があるということを知った時、驚きました。「恐れ」は、実体があります。  
単に私たちの心の状態というふうに済ませべきものではないと知ったのです。  
現実問題として、「恐れ」の中で生きている人々が実に多くいます。

「恐れ」を招く原因は様々でしょう。しかしその実体は「恐れ」という  
人を不信仰に陥れるもの、信仰の真逆にいる存在なのです。  
私も、そのような「恐れ」に影響されていることが多々あります。  
これは、周りの環境、置かれている状況、境遇の中でいつのまにか知らず知らずの  
うちに影響されている、反応してしまっているものです。  
私もつい最近経験しましたが、コミュニケーションを取る相手が何かしら「恐れ」を  
抱いている場合、注意をしないと自分の中にも「恐れ」を招き入れしまう結果となり  
自分自身をコントロールすることが難しくなるということです。  
例えば職場の雰囲気、空気、家庭の雰囲気、空気、または国の雰囲気、空気、  
地域の雰囲気、空気といったものがあります。

そういうとわかりやすいでしょうか。  
その場所に行くとなにか覆われてしまったような、本来の自分らしさが失われたような  
暗い気分になったり、壁にぶつかって壁をぶち破れないようなそのような重たい何か  
を受け取ってしまうということがないでしょうか。  
時には電気はついているが電気が消えているような雰囲気を感じ取ったり  
重たいものを感じるものです。  
それは、場所であったり、人であったり、グループだったり、そのようなものから

受け取っていきます。

それは、そこに存在する人々が持っている心の状態が何かしらの雰囲気となって空気感として人の心に影響を与えていきます。

ですから、何も行動していない、言葉を発していないものの、何かしらその場の雰囲気空気が流れているのを感じ取ってしまいます。

ですから私は、それは目に見えないコミュニケーションと表現するのです。

目に見えないですが、心から発している信号が送られているので、知らず知らずにそれを受け取ってしまいます。

厳格なムード、嫌悪感のムード、軽蔑のムード、プライド、とにかく人の持っている様々なものがこの場所の空気となって醸しだされていきます。

ですから、私は自分が出す雰囲気、空気感に気をつけるようにしています。

自分がいったいどのような雰囲気を醸し出しているのか、周りの人にいやな空気感を発していないか、注意をするようにしています。

ただ私の場合、空気を読んで、もしくは雰囲気を感じてついつい私もその影響下に入ってしまうことが多々あり、よく反省してしまいます。

ですが、私がそのように影響されるのであれば、多くの人もそのようにその場所の雰囲気、空気感にきつと影響され、それを当たり前のように受け入れて生活をしてしまっているはずで

す。良い影響であればいいのですが、それが悪い影響だとかなりのダメージを自分自身に被ってしまうことになります。

ムードという言い方もできますが、いじめで例えるとわかりやすいでしょうか。人をいじめるといふムードが出来上がっている中で、最初は違和感だったものがそのムードに慣れてしまうと、いっしょにいじめてしまったり、ついつい影響を受けてしまうことがあります。

そのようなものも含めて私たちの心に抱く様々な感情には実態が伴っています。

それが如実に表されるのが「恐れ」です。

ビル・ジョンソンの著書「天が地に侵入するとき」の中で「恐れ」について書かれているのを読み、わたしは気づかされ、はっきりと「恐れ」に対する対処方法を受け取ったのです。

ビル・ジョンソンの著書「天が地に侵入するとき」から抜粋して紹介しましょう。

「恐れに満たされる」という見出しで書かれていますが

『聖書の命令の中で、最も多く繰り返されている言葉は「恐れるな」です。

恐れは神との関係の土台となる信仰を攻撃します。

恐れとは、サタンを信じることであり、それは不信仰と呼ばれるものです。

イエスは恐れに満ちた弟子たちに「なぜそんなに信仰がないのか。」と叱責されましたが、それは恐れをいただくことが、実は信仰はないことと同じだからです。

恐れと信仰は互いに対立し、共存することはできません。

サタンはベルゼブルと呼ばれます。それは「ハエの主人」という意味です。

サタンとその手下たちは腐敗したものが大好きです。以前、私たちは家の離れの建物の中に冷凍庫を置いていました。そしてある日曜日、教会から帰って来た時の

出来事でした、辺り一帯に忘れることができないほどの悪臭が漂っていました。初め私は、子どもたちがゴミを捨てるのを忘れ、それが悪臭の原因かと思いましたがそうではありませんでした。その理由はすぐに分かりました。冷凍庫が壊れていたのです。それで腐ってしまった肉からの悪臭がその原因だったのです。

私は、車の座席から12メートルほど離れたその建物を見ましたが、何とその窓は黒いハエで一面覆われていました。またそのハエの数の多さときたら、計り知れない程のものでした。冷凍庫は様々な肉で一杯だったので、ハエは繁殖のためのかっこうの場所を見つけたのです。それはもう信じられないほどの数になっていました。もちろんすぐ肉も冷蔵庫も捨てました。

もし心が苦み、嫉妬、憎しみのような腐ったもので満ちているなら、それはサタンを招き入れ、足場を与えることになります。

それはもちろんクリスチャンであったとしても例外ではありません。

だから私たちは、エペソの教会に対するパウロの警告「悪魔に機会を与えてはいけません。」を心に停めておく必要があるのです。恐れをもつことも同様に苦みや憎しみと同じように心の腐った状態であり、悪霊に機会を与えてしまうのです。

どうしてハエは冷凍庫の場所が分かったのでしょうか。腐った肉の臭いが漂っていたからです。同じように恐れも臭いを放ちます。信仰と同様、恐れも霊的な領域における実体です。サタンは私たちの同意なしに力を発揮することはできません。恐れはサタンの脅かしに、私たちが同意する時の心の反応だと言えるでしょう。』

これを読むと、「恐れ」は、単に心の状態などではなく、実体なのです。

それは、悪魔に属する心の状態を抱き続けることで悪魔へ機会を与え、臭いを放ち悪を寄せ付けることになるのです。

そうなると信仰がなくなってしまう。

『恐れ』は、不信仰を招きます。信仰を失わせようとするのは、神の働きではありません。

常にサタンは信仰を失わせようとする働きかけてきます。その足場が「恐れ」です。

ヤコブ4：7、8ではこのようにあります。

「ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。

私たちの選択は「信仰」か「不信仰」かのどちらかです。

聖書には「信仰がなければ神に喜ばれることがありません」とあり、信仰の重要性を言っています。

ビル・ジョンソンが言っていますが「信仰とは疑いがない状態のことを言うのではなく信じるが存在すること」だと。

これは深いですね、疑っているながら「信じます、信じなければならぬ」というものではなく信じるが存在すること。聖書では「からし種の信仰があればよい」と言っています。

ですから私たちは大きな信仰、まったく疑いのない信仰を掲げるのではなく、からし種ほどの信仰であったとしても、信じるが存在すること、これが重要ということです。信仰は神からの賜物であり、イエス様は、いつも神の右で私たちの信仰がなくならないようにとりなしています。

信じる信仰があるなら、神は事を行ってくださることをそれを信じ、期待するのです。信仰に対抗する不信仰「恐れ」は、実体ですから、神に祈り、締め出し、入れないようにすることが肝心です。

そのために常に神との対話、聖霊様が語られることに耳を傾け、信仰をもらうのです。

「信仰は聞くことから始まる」と聖書にありますが、その事についてもビル・ジョンソンが言っていますが「過去に聞いたことから信仰が始まるのではないと、今現時点で聞くことから始まるのです。

聖霊様は私たちに信仰を語ります。聖霊様から聞いて恐れ、不信仰を閉め出し、信仰を受け取りましょう。

イエス様は、信仰の創設者、完成者、イエス様から目を離さないようにと聖書は教えています。

私たちは、恐れに支配されて不信仰を語るのではなく、何でもできる神に期待を置き神の信仰の領域に踏み入れ、勝ち取る信仰の空気感を放ち、聖霊様の与える力ある信仰の雰囲気醸し出し、神の領域を広げていける者になっていきましょう。聖霊様の与える雰囲気、空気感は力に満ち、光が解き放たれ、人々は闇から光へと招かれていきます。「闇は光に打ち勝たない」私たちクリスチャンはそのような光の子であり、周りの闇の空気、雰囲気を変えていける人々です。

今日分かち合ったことで皆さんが力づけられ、聖霊様からの信仰を受取り、神の領域御国を拡大するものになってくださるようにと励まします。

「悔い改めなさい、神の国は近づいた」

私たちのこれまでのクリスチャン生活を悔い改めて、神が喜ばれる信仰の生活へと回れ右する時です。神の国はこれまでの生ぬるいクリスチャン生活を悔い改めて信仰に向かって歩み出す時、神の国は広がっていきます。

それは、私から、そしてあなたから。共に神の国を解き放つ役割を果たしていきましょう。